

会議録

会議の名称	令和4年度 第6回西東京市文化芸術振興推進委員会
開催日時	令和5年2月20日（月） 午後5時から午後6時30分
開催場所	インゲビル第3・4会議室
出席者	委員：（対面）新藤委員長、濱崎副委員長、青木委員、森委員、亀田委員 （オンライン）藤井委員、中山委員、中野委員 （欠席）笠原委員、遠野委員 事務局：文化振興課 堀課長、文化振興課文化振興係 山本係長、文化振興課文化振興係 小菅主事、西東京市第3期文化芸術振興計画策定支援業務委託事業者（株式会社創建東京本部：内田 副主任、高橋 副主任研究員、砂田 研究員）
議題	1 第2期文化芸術振興計画の評価について 2 第3期文化芸術振興計画策定に係る「令和4年度 文化芸術に関する調査報告（案）」について 3 その他
会議資料の名称	資料1 西東京市第2期文化芸術振興計画「令和4年度施策・事業評価（令和3年度分）」調査表に関する文化芸術振興推進委員会からの課題③に対する総合評価コメント（案） 資料2 西東京市第2期文化芸術振興計画 重点項目に関する文化芸術振興推進委員会からの総合評価コメント（令和元年度～令和3年度） 資料3 西東京市第2期文化芸術振興計画 重点項目に関する文化芸術振興庁内検討委員会からの総合評価コメント（令和元年度～令和3年度） 資料4 西東京市文化芸術に関するアンケート調査等結果（速報版）
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>【以下、新藤委員長にて議事進行】</p> <p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オンラインによる参加も可能としていることを説明。 ・事務局にて「第5回文化芸術振興推進委員会会議録（案）」を作成し提示。委員より異論がなかったため、正式な会議録することで全会一致。 ・第5回文化芸術振興推進委員会において、「【課題③抜粋版】【課題③抜粋版】西東京市第2期文化芸術振興計画「令和4年度施策・事業評価（令和3年度）」調査表」における各所管課からの回答内容等について、幾つかの確認事項が出ていたため、確認事項について事務局より回答。 	

- ・事務局にて、資料1を用いて第2期文化芸術振興計画に掲げる3点の課題のうち、課題③「文化芸術を通じたまちづくりへの展開」への取組状況に対する総合評価コメント（案）について説明。委員より異論がなかったため、課題③に対する総合評価コメントとすることで全会一致。

2 【議題1】第2期文化芸術振興計画の評価について

- ・事務局にて、資料2～資料3を用いて、第2期文化芸術振興計画の評価目的及び第2期文化芸術振興計画重点項目に関する文化芸術振興推進委員会及び文化芸術振興庁内検討委員会からの総合評価コメントについて説明。

○委員長

- ・資料2の下部分に記載されている「3年間（令和元年度～令和3年度での文化芸術振興推進委員会及び文化芸術振興庁内検討委員会の評価）」に基づき、内容に不足はないか、記載のあること以外に課題がないか等、委員より意見をいただきたい。

○委員：

- ・課題①市民に身近な鑑賞機会のあり方のうち、「今後の課題」に「事業やイベントにおけるオンライン化のさらなる推進」とあるが、オンライン化を進めるのではなく、オンラインを活用して、より多くの市民が事業やイベントに参加できる仕組みづくりが必要なのではないか。また、課題②文化芸術活動の担い手を広げる取組の推進について、今後の課題として「後継者の育成」や「世代をつなぐ仕組みづくり」の視点も入れるべきではないか。

○委員：

- ・課題①～③を見比べると、「達成できたこと」に記載されている事項が、別の課題では「達成できなかったこと」に挙げられているなどわかりづらい。「達成できたこと」、「達成できなかったこと」の内容を一つに絞るなどして、一番重要な事項がわかるようになるのではないか。

○委員：

- ・事業やイベントなどソフト面に関する評価がある一方、施設関係などハード面に関する評価がない。また、多様性という点においては、LGBTQに関する視点も今後取り入れるべきではないか。

○委員：

- ・資料3では「文化芸術振興庁内検討委員会からの総合評価コメント」となっているが、「文化芸術振興庁内検討委員会」とは何か。

○事務局：

- ・文化芸術振興計画における施策を推進し、及び文化芸術の振興について協議及び検討するために設置している委員会である。庁内検討委員会では、第3期文化芸術振興計画の策定に関する事、現行計画の施策の推進に関する事、現行計画の施策の点検及び見直しに関する事について協議及び検討をし、その結果を市長に報告している。構成員は文化振興課長を座長とし、企画政策課長、地域共生課長、子育て支援課長、教育企画課長の5人となっており、年度ごとに1～2回程度開催している。

○副委員長

- ・資料2または資料3に文化芸術振興庁内検討委員会の概要について記載があるとわかりやすい。

○副委員長：

- ・課題①市民に身近な鑑賞機会のあり方のうち、「達成できたこと」に「新しい生活様式を踏まえ、工夫を講じた事業やイベントの実施」とあるが、この3年間は新型コロナウイルス感染症の影響等があったことから、新型コロナウイルス感染症に関する文言も記載すべきではないか。

○委員長：

- ・課題①市民に身近な鑑賞機会のあり方のうち、「今後の課題」の「事業やイベントにおけるオンライン化のさらなる推進」については、オンラインを活用して、より多くの市民が参加できる機会づくりとなる必要があると考える。そのため、文言の整理が必要である。

○事務局

- ・課題①市民に身近な鑑賞機会のあり方のうち、「今後の課題」の「事業やイベントにおけるオンライン化のさらなる推進」については文言の整理をする。また、資料2にある3年間（令和元年度～令和3年度）での文化芸術振興推進委員会及び文化芸術振興庁内検討委員会の評価のほか、本日、委員よりいただいた意見等については、第3期文化芸術振興計画を策定するうえでの課題として参考にさせていただく。

3 【議題2】第3期文化芸術振興計画策定に係る「令和4年度 文化芸術に関する調査報告（案）」について

- ・事務局にて、資料4を用いて、第3期文化芸術振興計画策定に係るアンケート、ヒアリング及びワークショップの調査概要・主な調査結果等について説明。

○委員長

- ・資料3の調査結果からわかる現状と課題に基づき、現状や課題の内容に不足はないか、第3期文化芸術振興計画の策定を進めていく過程で他の視点がないか等、委員より意見をいただきたい。

○委員：

- ・今回の調査結果でも情報発信が課題となっていることが見て取れる。小平市では、市民が管理している「市民掲示板」があり、情報交換の場となっている。こうした取組が西東京市でもあると良いのではないか。また、第3期文化芸術振興計画の策定を進めるうえで、LGBTQに関する視点も取り入れるべきである。

○委員：

- ・資料4の1ページにある「主な調査結果」について、「②文化芸術の鑑賞・体験について」の「過去1年間で直接、文化施設などで鑑賞した人は約7割です」となっているが、新型コロナウイルス感染症の影響等もあることから、鑑賞した人が約7割というのは高すぎるのではないか。アンケートの回答者にたまたま鑑賞機会があったのか、

それとも全体として妥当な結果なのか。また、市内イベントの情報発信としては、例えば、市ホームページで「文化芸術」というボタンを押したら関連情報が出てくるような仕組みがあると、より多くの情報が市民に届くのではないか。その他、現在、市民会館が閉館となり、文化施設がコール田無と保谷こもれびホールしかない状況である。文化施設をより充実させていくために、文化芸術振興推進委員会としても能動的に意見を出すべきである。

○事務局：

- ・無作為抽出の場合は、400件以上の回答が得られれば統計学的な観点から有効性があると言える。今回の有効回答数は、583件であったため妥当な結果である。また、過去1年間で鑑賞した割合については、1回でも鑑賞した場合は鑑賞割合に含まれているため、全体としては高い割合となっているが、参考資料6ページにあるグラフから分かるように各分野の鑑賞割合で見ると低い結果となっている。

○委員：

- ・資料4の4ページにある「調査結果からわかる現状と課題のまとめ」について、その結果は全国的な傾向なのか。それとも、西東京市の特徴的な結果があるのか。

○事務局：

- ・新型コロナウイルス感染症の影響による文化芸術に親しむ機会の減少については、他の自治体でも同様の傾向である。西東京市の特徴的な結果としては、文化芸術に親しんでいる子ども達の割合が高く、ヒアリング調査やワークショップを通じて実際に子ども達からの意見を得られたことは大きいと考えている。

○委員：

- ・先日、西東京市で実施されたアーティストとのワークショップ「探し物は、なんですか？」に参加した。西東京市在住で著名な方が講師になっているにも関わらず、そのことを知らない市民も多く驚いた。市にゆかりのあるアーティストなどと触れ合う機会があれば、子ども達にとっても憧れの存在となる。そのような機会があると良い。

○委員：

- ・文化芸術が心の豊かさや市への愛着心につながっていることは文化財に関わる者として嬉しかった。しかし、資料4の1ページにある「主な調査結果」について、「⑥西東京市のまちのイメージについて」の「西東京市が文化芸術に親しみやすいまちというイメージは、十分に浸透していない状況です」とあり、否定的評価が70.1%となっているのは残念である。また、20歳代及び30歳代の肯定的評価が高いというのはどこから読み取れるのか。

○事務局

- ・参考資料16ページにて年代ごとのグラフを記載しており、20歳代及び30歳代の肯定的評価が高いことが読み取れる。

○委員：

- ・情報発信について、若い世代は自ら情報を入手するが、高齢の世代は自ら入手することが難しい。高齢世代にも情報が届く仕組みづくりが必要ではないか。また、伝統文化等の継承も課題であることから、伝統文化等を継承するための支援も必要である。

○委員長

- ・子どもを対象としたアンケート調査の回答数が多く、ヒアリング調査やワークショップを通じて、より多くの子ども達から意見を聞く事ができたのは価値がある。また、子ども達の方が西東京市は文化芸術を楽しむことができるまちだと感じている割合が高く、まちのイメージが良かったという点は非常に興味深い。この価値ある意見を活かしながら、第3期文化芸術振興計画の策定を進めていけたら良い。

4 【議題3】その他について

- ・事務局にて、第6回文化芸術振興推進委員会を以って令和4年度の文化芸術振興推進委員会が終了したこと、令和5年度の文化芸術振興推進委員会の予定（令和5年4月開催予定）及び会議録案の確認方法について説明。

5 閉会

以上